

国立大学法人北海道大学 総長業績評価 評価書

1. 評価

- 順調である※¹
- おおむね順調である※²
- 改善が必要である※³

2. 評価の内容

(1) 高く評価される点

- 本学の特徴・強みを理解するための学部1年次必修科目である「北大での学び」の実施、化学反応創成研究拠点 (ICReDD)、ワクチン研究開発拠点 (IVReD) など世界最高峰の研究拠点の確保、及び博士課程学生への経済支援などは、比類なき大学を目指す本学を特徴づけるモデルとして高く評価できる。
- HU VISION 2030 を、本学のアイデンティティを基盤にして Excellence と Extension という二軸で策定し、本学が目指す姿を学内構成員と共有するとともに、学外に示したことは高く評価できる。
- 第3期中期目標・中期計画を踏まえつつ、伝統ある大学として存在感を向上させるために、第4期中期目標・中期計画に繋がる運営方針をいち早く示し、シェアード・ガバナンス体制の下、精力的に取り組んでいる。
- 本学の使命を果たすため、地域の特徴と時代の要請を十分考慮しながらリーダーシップを発揮し、実績を示している。
- URA を積極的に活用し、道内大学間の連携、地域課題解決などの社会連携や、外部資金獲得などに進展を見ている。
- 経営協議会の議事運営が効率的・効果的であり、広範で多様な意見を吸収するという経営協議会本来の機能を発揮している。
- 広範な広報活動、学内外との積極的なコミュニケーションにより、本学の強み・特色を端的にわかりやすく発信しており、説明責任を果たしていることは特記できる。

(2) 今後、具体的進展が期待される点

- HU VISION 2030 を全学に浸透させ、具現化を進めていただきたい。
- 未来戦略本部を中心に、DX、経営的収入、女性登用などのテーマを取り上げたことは評価する。一方で、大学経営のあり方として、未来戦略本部による答申等を戦略

面から精査し、PDCA サイクルを回して成果を出す体制を一層整えていくことを期待する。

- 指定国立大学や国際卓越研究大学は、申請のリスクよりも、外部からの評価やレビューの向上といったメリットが遙かに大きいので、今後の申請・獲得に期待する。
- 中期目標・中期計画の実施やその他大学運営における重要事項等においては、大学執行部の熱意と、個々の学生・教職員の認識との間に、ギャップが生じているように思われる。
- TOP10%論文比率の向上については、HU VISION 2030 に基づき、全学的な研究戦略を描く中で取り組むことを期待する。
- 大学院改革は、その方針と具体的な実行計画を作成し、全学的な協議の上で推進していただきたい。
- 今後の国際教育のあり方や目標、実行施策を作成し、その中で、補助金（スーパーグローバル大学創成支援事業）終了後の新渡戸カレッジや現代日本学プログラムなど既存プログラムの位置づけを明確にしていきたい。
- 半導体事業は、北海道の産業の発展に重要であり、特に科学技術面について、本学がリードしていくことが望まれる。
- 総長個人に帰責されるものではないが、競争的資金の獲得に注力せざるを得ない教員と、業務量が激増している事務職員に負荷が蓄積しており、HU VISION 2030 が志向する未来を実現する余力があるか危惧される。

※1 第8に掲げる評価資料に基づき、総長の業績が順調であると評価されること。

※2 第8に掲げる評価資料に基づき、向上すべき事項があるものの、総合的に見て総長の業績が順調であると評価されること。

※3 第8に掲げる評価資料に基づき、総長の業績の改善が必要であると評価されること。